

平成17年台風14号水害での課題

- ① これまで大規模な水害を経験しておらず、避難訓練も十分に行われていなかった
- ② 避難指示を受けても避難を行わず、家にいるなど各自の判断を優先する住民が多かった
- ③ 避難経路となっているところが水没し、通れないところが多々あった
- ④ 浸想図を認識している住民が少なく、防災情報の認知不足が見受けられた

上記のような課題を踏まえ、これまで様々な取り組みを行ってきたが、現状以下のような問題が考えられている

- ⑤ H17年水害以降、大規模な水害が発生しておらず、市民の水防災意識が薄れつつある

取り組み目標【五ヶ瀬川】

■5年間で達成すべき目標

五ヶ瀬川水系の大規模水害に対し、「地域ぐるみで被害の最小化」、「速やかな社会システムの回復」を目指す。

※ 社会システム……インフラ整備とそれに伴う人々の生活・経済活動の総称をさす

■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

五ヶ瀬川水系では、平成17年の台風14号大水害を契機に、浸水被害軽減対策協議会を組織し「みずからまもるプロジェクト」としてソフト対策に取り組んできた。

今回、五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策として、河川管理者が実施する河道掘削等の洪水を安全に流す対策に加え、「みずからまもる」以下の取り組みを実施する。

※「みずからまもる」とは、「自らまもる」と「水からまもる」を併せて被害軽減に努めるということ

1. みずからが水害の教訓を忘れず、**迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取り組み**
2. 洪水氾濫による被害を地域や企業ぐるみで軽減、防災組織・体制強化のための**水防活動の取り組み**
3. みずからの自助力、共助力向上のための**水防災教育の推進の取り組み**